

# 神戸市少年団登山教室山行（6月15日）報告

2025. 6. 16

## 1. 参加者

教室生参加者 25名

引率者 岳連理事4名 大学生ボランティア1名

## 2. 記録

天気 曇り 湿気多

8時45分 六甲ケーブル下駅 集合

9時 六甲ケーブル下駅 出発

自動車道を登って

9時10分 老人ホーム前 着

本日のコース説明

雨天後で滑らないよう注意、

衣服調整の注意

準備体操

水分補給指示

9時25分 老人ホーム前 発

「油コブシ」を登る

10時53分 「油コブシ」を抜け自動車道に出る。

自動車道傍に生えている「ツタウルシ」の説明と注意をする。

11時15分 ゴルフ場横を通過

11時32分 六甲記念碑台 着

昼休憩

12時25分 再集合してA.H.ブルーム氏や六甲山の登山道の名前

などを説明する。

12時35分 六甲記念碑台 発

ノースロードの「二つ池」でモリアオガエルとその卵をみる。

13時43分 ダイヤモンドポイント 着

「地図読み」の演習

14時 8分 ダイヤモンドポイント 発

丁字が辻を経て

14時28分 アイスロードに入る

16時 7分 六甲ケーブル下駅 着

解散



### 3. 準備物

名札・地図2枚（コース用、ダイヤモンドポイントでの読図用）・  
コンパス（貸出し用5個）・虫よけスプレー（マダニ用）



### 4. 活動内容と感想

今回の山行予定の6月14日（土）が激しい雨になり翌日の6月15日（日）に山行を延期した。そのため予定していた「六甲自然案内人の会」の方が指導する野外観察ができず代わりにダイヤモンドポイントまでの山行に変更した。前日からの雨は上がったが曇り空が広がり山はガスで見通しは悪かった。ただ、天気という人の都合などとの関係のない自然を、身をもって感じることでできるのが山登りであることを考えると教室生達にとってはいい体験になったと思う。今回の山行では、スタート直後から体調が悪い教室生が3名でた。少し休ませたりゆっくり歩かせたり経口補水液を飲ませたりして様子をみた。そうするうちに回復してきたのでそのまま山行を続けた。事前の体調管理をしっかりするように注意を促したい。

9時半くらいから油コブシの山道に入る。油コブシは雨上がりで濡れていて滑らないよう注意しながら登る。ガスのかかった木々の間を進んで11時前に油コブシを出る。車道を少し行った所で傍に自生しているツタウルシを教室生達に見てもらう。このウルシは非常に強いかぶれ成分を持っていて決して触れないように注意をする。その後ゴルフ場横を経て六甲記念碑台に着き昼休憩とする。ガスが広がっていて時おり流れる霧（ガス）も見られた。

昼休憩後、六甲山の開拓者のブルーム氏やアイスロード、シュラインロードなどのカタカナネームの由来などを説明してから出発。ノースロードを経てダイヤモンドポイントに向かう。ノースロードの傍にある「二つ池」でモリアオガエルとその卵を見つける。池に突き出した木々の枝に幾つかの泡の塊があった。モリアオガエルの卵だ。教室生達も目を凝らして見入る。1週間前の下見の時にはなかったのがラッキーだった。



相変わらず天気は良くならない。小雨もばらつく。覆いかぶさるように生える木々や両側にササが生えている山道を進む。途中、列が伸びすぎてグループが2つに分かれてしまう。連絡を通りながら再集合する。そこで列が伸びることの危険とそうならないように注意する。ノースロードには道沿いにコアジサイの株が並んでいて花をたくさんつけている。濡れた葉の横から顔を出しているコアジサイの花は今が盛り。ただ教室生達はあまり関心がなさそう。それよりも道端にいたアカハライモリに関心を示していた。

しばらくしてダイヤモンドポイントに到着。すこし天気も回復する。ここで地図読みの体験をする。現在地が分かっている遠くに見える山を地図で確認する作業をした。コンパスを使って地図を整置し、見える目標の山と磁北の角度を測りながら地図上の山を確認した。

2時過ぎにダイヤモンドポイントを出発しアイスロードに向かう。アイスロードをどんどん下ってゆく。昨日の雨のせい少し水



嵩の増えた沢のいくつかの場所で気を付けながら渡渉する。元気な教室生が恐る恐る渡る他の教室生の手を取っ

て支えて対岸に渡した。頼もしいなと思った。表六甲ドライブウェイの下を潜るトンネルを通り80年以上前の六甲ロープウェイの遺構を横に見て六甲ケーブル下駅に到着した。予定の到着時刻を過ぎていたので早く連絡事項を伝えて解散した。

今回、列が伸びすぎてパーティが2つに分かれてしまったのは反省しなければならない。毎回、列をあけないことを注意するがやっぱり伸びてしまう。先頭ともっと密に連絡を取り合っそうならないように気を付けたい。

また、今回の山行は予定の時刻を過ぎての下山になった。下りにかかる時間に余裕を持たせずに計算したのが原因。今後気を付けたい。

それと出発直後に体調不良を起こした教室生が複数でたのは今後注意しなければならない。前日の十分睡眠、当日の朝のしっかり食事と水分補給等を次回の山行時に再度伝えたい。



文責 大西